

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	滋賀文教短期大学
設置者名	学校法人松翠学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	国文学科	夜・通信			10	10	7	
		夜・通信						
	子ども学科	夜・通信			12	12	7	
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

①ホームページによるシラバスの公表 本学HP→大学紹介→情報公開→2. 修学上の情報の「シラバス」→以下分岐→実務経験教員一覧 (https://dl1.dl.multidevice-disc.com/dl/21479-e949d0c9c1af3a5513bd0d35e8bea57b) →1 年次開講科目・子ども学科専門科目 (https://dl2.dl.multidevice-disc.com/dl/19274-d48a80fe039310c4481d0d7a6862571a) →1 年次開講科目・国文学科専門科目 (https://dl2.dl.multidevice-disc.com/dl/19275-b3bdb35282cd210e858951a857ac3aa7) →2 年次開講科目・子ども学科専門科目 (https://dl2.dl.multidevice-disc.com/dl/19283-ea72f57c673f6a894db1630506a2b6d9) →2 年次開講科目・国文学科専門科目 (https://dl2.dl.multidevice-disc.com/dl/19275-b3bdb35282cd210e858951a857ac3aa7) ②学生便覧（刊行物）による一覧表及びシラバスの公表 平成31年度学生便覧2019にて以下のページにて公表（以下学生便覧とは平成31年度の学生便覧とする。） ・実務経験のある教員による授業科目一覧 → （P128） ・国文学科シラバス → （P206、207、208、209、288） ・子ども学科シラバス → （P170、172、175、187、235、240） 入手方法は学生に関しては各年度初めに全員に配布。外部より請求がある場合は、滋賀文
--

教短期大学事務局学務課に問い合わせ。
(以下学生便覧入手方法については同様のため省略)
※HPにおいて、PDFデータを公開しているため、ファイルの変更等があった場合 URL
が変更となる場合がございます。上記 URL にて確認する事が出来ない場合は本学学務課
までお問い合わせください。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	滋賀文教短期大学
設置者名	学校法人松翠学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページ <https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	税理士	平成 28. 4. 3 ～令和 2. 4. 2	資金・財務
非常勤	元金融機関	平成 28. 4. 3 ～令和 2. 4. 2	労務・法務
非常勤	市教育長	平成 30. 5. 21 ～令和 2. 4. 19	教育行政
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	滋賀文教短期大学
設置者名	学校法人松翠学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・授業計画(シラバス)の作成過程 (国文学科、子ども学科共通) ①当該年度シラバス作成要項の見直し (教務・カリキュラム委員会、学務課 10月中旬迄) ②教授会にてシラバス作成要項の周知、シラバスチェック依頼を行う。(11月教授会) ③シラバス作成要項を元としたFD研修実施(FD委員会、学務課 12月中旬迄) ④シラバス作成依頼(全教員 12月末迄(新任教員はこの限りではない)) ⑤シラバス作成(全教員 1月中旬迄) ⑥シラバスチェック(担当教員、学務課職員 1月下旬～2月上旬) ⑦シラバス公表 ⑧次年度シラバスの項目等の見直し(4月初旬～) ・授業計画(シラバス)の作成・公表時期 (国文学科、子ども学科共通) ①授業計画の作成時期 (12月下旬～1月中旬(新任教員はこの限りではない)) ※(参考)平成30年度に関しては平成30年12月27日から平成31年1月15日 ②授業計画の公表時期 (ホームページ:4月1日付、学生便覧:2年生は3月下旬、1年生は4月上旬) ・授業改善について ①学生が大学への要望等を意見する場として学生懇談会を実施し、懇談会内において学生から授業等に関する意見を聴取し、授業改善の一助としている。 ②学生に授業アンケートを実施し、それを基に各教員が授業検討票を作成し、授業改善の一助としている。	
授業計画書の公表方法	本学ホームページ (https://www.s-bunkyo.ac.jp/syllabus) 学生便覧(刊行物)

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

①学修成果：各学科各コースそれぞれに学修成果を設定

②単位認定：単位の認定は、授業科目の出席時数が、授業時数の3分の2未満の者については、原則として単位の認定を行わない。また、単位の認定は定期試験（レポート、作品、実技を含む）の成績と平常の成績の評価に基づき行う。各シラバスにおいて、成績評価方法・基準についての大項目を設け、小項目として「定期試験」「レポート」「小テスト」「その他（学生が何で評価されるか具体的に必ず記載、「その他のみ」は無し。）を設け学生が成績評価を理解したうえで履修できるようにしている。

(根拠：滋賀文教短期大学 学則第25条（学生便覧 P94）)

③単位の計算方法：各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとしている。

- A 講義については15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については30時間の授業をもって1単位とする。
- B 演習については30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については15時間の授業をもって1単位とする。
- C 実験、実習及び実技については45時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については30時間又は40時間又は60時間の授業をもって1単位とする

(根拠：滋賀文教短期大学 学則第24条（学生便覧 P94）)

④アセスメント・ポリシー：本学におけるアセスメント・ポリシーを設定している。本学における学修成果の評価については、3つのポリシーに基づいた教育研究活動の向上及び改善のため、機関レベル（大学）、教育課程レベル（学科）、科目レベル（各授業）における学修成果を多面的にアセスメントする。特に査定に関してどのような流れで査定し、活用されるかについても公表している。

(根拠：本学ホームページ、学生便覧（学則等）)

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・ G P A等の客観的な指標の具体的な内容 (指標の算出方法など)

成績の認定は以下の通り

- 1 成績評価は 100 点を満点として評点化した後、履修者数に応じて以下の表①または表②のとおり認定、評価し、C 評価以上を合格として、単位を認定する。
 - ・ 履修科目がどちらの評価基準によるかは原則各講座における履修者数による。
 - ・ 評価方法については履修者数確定後、担当教員より授業内で伝えるとともに掲示で周知する。
 - ・ 複数学科・学年同時開講の科目、A, B グループに分かれている同講座名の科目は合計履修者数で算出する。
 - ・ 科目の内、保育実習Ⅰ・Ⅱ、施設実習、教育実習(幼)・(小)、教育実習Ⅱ、ゼミⅠ・Ⅱ、基礎力プログラムⅠ～Ⅳについては履修者数にかかわらず表①を採用する。

成績評価① (表① 履修者数 14 名以下)

成績評価は、次表のとおり、認定・評価する。合格点は 60 点以上とし、評価は C 評価以上を合格として単位を認定する。

区分	評価	成績評価基準 (分布)	GP	評価内容
合格	S (秀)	100～90 点	4.0	基本的な学修目標を十分に達成し、 きわめて優秀な成果をおさめている
	A (優)	89～80 点	3.0	基本的な学修目標を十分に達成している
	B (良)	79～70 点	2.0	基本的な学修目標を達成している
	C (可)	69～60 点	1.0	基本的な学修目標を最低限達成している
不合格	D (不可)	59 点以下	0.0	基本的な学修目標を達成していない ので再履修が必要である
認定	E (認定)	—	—	本学以外で修得した科目を単位として認めたもの

成績評価② (表② 履修者数 15 名以上)

成績評価は、次表のとおり上位から 10% (±5%)・25% (±5%)・45% (±5%)・20% (±5%) の割合で、認定・評価する。合格点は 60 点以上とし、評価は C 評価以上を合格として単位を認定する。

区分	評価	成績評価基準 (分布)	GP	評価内容
合格	S (秀)	10% (±5%)	4.0	基本的な学修目標を十分に達成し、 きわめて優秀な成果をおさめている
	A (優)	25% (±5%)	3.0	基本的な学修目標を十分に達成している
	B (良)	45% (±5%)	2.0	基本的な学修目標を達成している
	C (可)	20% (±5%)	1.0	基本的な学修目標を最低限達成している
不合格	D (不可)	単位修得条件未充足	0.0	基本的な学修目標を達成していない ので再履修が必要である
認定	E (認定)	—	—	本学以外で修得した科目を単位として認めたもの

2 G P A算出方法

(4.0×秀の修得単位数+3.0×優の修得単位数+2.0×良の修得単位数+1.0×可の修得単位数)÷総履修登録単位数 (不可の単位数も含む。)

3 GPAの対象とならない授業科目 - 履修登録取消の手続きをした科目。 - 本学以外で修得した科目を単位として認めたもの。 ・客観的な指標の適切な実施状況 ①履修規程への明記 (GPA) 第 16 条 GPAの算出方法は、次のとおりとする。 $(4.0 \times \text{秀の修得単位数} + 3.0 \times \text{優の修得単位数} + 2.0 \times \text{良の修得単位数} + 1.0 \times \text{可の修得単位数}) \div \text{総履修登録単位数 (不可の単位数も含む。)}$ 2 GPAの対象とならない授業科目は、次のものとする。 - 履修登録取消の手続きをした科目。 - 本学以外で修得した科目を単位として認めたもの。 3 学修の質保障のため、GPA の値をもとに以下により警告、退学勧告を行うものとする。 - GPA が下位 4 分の 1 または 2.0 未満に属する者は、警告を行い担任による指導を行う。 2 学期連続して GPA が 1.0 未満の者は、退学勧告を行う。 ②履修規程の適切な運用 履修規程に則り、各教員が厳正に成績をつけ、結果を学務システムに入力。各学科ごとの成績の分布状況を把握。また、学修の質保障のため、各学期ごとに成績及び GPA 値が出た段階において、全学生に対し担任面談を行う。その中で履修規程により明記された GPA 値の学生には警告及び退学勧告を行なう。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	本学ホームページ (https://dl2.dl.multidevice-disc.com/dl/21480-b36b082f0ab39c8c5f03d063c8c115f3) 学生便覧 (P 2 5 ～ 2 7、P 9 9 ～ 1 0 2)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・卒業認定に関する方針の具体的な内容

【国文学科】

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

- DP 1 日本文学・文化及び日本語についての専門的な知識と理解力を身につけている
- DP 2 適切な日本語の表現力を身につけ、自らの考えや意見を的確に表現することのできる力を身につけている
- DP 3 学びの中から課題を見つけ出し、自ら解決に導くための必要な能力を身につけている
- DP 4 身につけた幅広い知識や教養及び発信力をもとに、自立した社会人としての責任を自覚し、社会に進んで参画・貢献できる力を身につけている

【子ども学科・保育士養成コース】

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

- DP 1 保育・幼児教育に関わる専門的な知識・技能と実践力を身につけている
- DP 2 一人一人の子どもの発達や特性を理解し、共感できる力を身につけている
- DP 3 保育への使命感と倫理観をもち、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている
- DP 4 生涯学び続け、主体的に行動することができる汎用的能力を身につけている

【子ども学科・小学校教諭養成コース】

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

- DP 1 教員としての基礎的・基本的な学力と専門的な知識・技能修得に向けて学び続ける実践力を身につけている
- DP 2 子どもや子どもを取り巻く状況を理解し、教育的愛情を持って子どもに接していかうとする態度を身につけている
- DP 3 教育への使命感と倫理観をもち、感性を磨き豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている
- DP 4 主体的に学び続け、他者と共に協働して課題解決に取り組んでいかうとする能力を身につけている

また、卒業の認定に当たっての基準は以下の通り

学科	修業年限	卒業最低単位数	必修科目	選択科目	取得可能な学位
国文学科	2	63 単位	30 単位	33 単位以上	短期大学士（文学）
子ども学科	2	63 単位	12 単位	51 単位以上	短期大学士（教育学）

卒業の条件は以下の通り

本学を卒業するためには、2 年以上在学（休学期間を除く）し、下記のとおり単位を修得しなければならない。

学科	教養科目	専門科目	合計
国文学科	13 単位以上	50 単位以上	63 単位以上
子ども学科	13 単位以上	50 単位以上	63 単位以上

・卒業認定に関する方針の適切な実施状況

卒業認定に関しては、以下の流れで厳正に判断をし、実施をしている。

- ① 1 月下旬、最終試験終了
- ② 2 月上旬、最終成績確定

③2 月期教授会にて、卒業の認定に関する方針や学生の取得単位数を踏まえ卒業判定を行う。 ④審議結果に従い、卒業者の決定 （根拠：2 月期教授会資料、議事録）	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	本学ホームページ (https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin) (https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/graduate) 学生便覧（P 8 ～ 1 1、2 4）

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	滋賀文教短期大学
設置者名	学校法人松翠学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学ホームページ https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/finance
収支計算書又は損益計算書	本学ホームページ https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/finance
財産目録	本学ホームページ https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/finance
事業報告書	本学ホームページ https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/finance
監事による監査報告(書)	本学ホームページ https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/finance

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 滋賀文教短期大学事業計画 対象年度: 平成31年度)
公表方法: 非公表
中長期計画(名称: 松翠学園経営改善計画 対象年度: 平成27～31年度)
公表方法: 非公表

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/assessment
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページ https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/jaca
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国文学科	
教育研究上の目的 (公表方法：HP (https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin)、学生便覧)	
(概要) 以下の目的、目標を掲げ教育活動を行っている。 【教育目的】 国文学科は「日本文学・文化及び日本語についての幅広い知識と教養を身につけ、自立した社会人として現代社会に貢献できる人材の育成」を教育目的とする。 【教育目標】 ◇日本文学・文化及び日本語に関わる幅広い知識と教養を身につける ◇日本文学・文化及び日本語を学ぶことにより、深い思考力と豊かな表現力を身につける ◇課題を見つけ、解決するために必要な情報を獲得・分析する力を身につける ◇自立した社会人として積極的に社会に貢献できる力を身につける	
卒業の認定に関する方針 (公表方法：HP (https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin)、学生便覧)	
(概要) 以下のポリシーを掲げ、卒業認定を行っている。 【学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)】 DP 1 日本文学・文化及び日本語についての専門的な知識と理解力を身につけている DP 2 適切な日本語の表現力を身につけ、自らの考えや意見を的確に表現することのできる力を身につけている DP 3 学びの中から課題を見つけ出し、自ら解決に導くための必要な能力を身につけている DP 4 身につけた幅広い知識や教養及び発信力をもとに、自立した社会人としての責任を自覚し、社会に進んで参画・貢献できる力を身につけている	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：HP (https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin)、学生便覧)	
(概要) 以下のポリシーを掲げ、教育課程の編成及び実施を行っている。 【教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)】 CP 1 1 年次においては、基礎的な知識を修得することに重点を置いた科目を設置する CP 2 2 年次においては、専門的な知見と実践力を養うことに重点を置いた科目を設置する CP 3 社会で必要とされる、課題発見・解決力、コミュニケーション力、主体性、協調性を育成するための必修科目を設置する CP 4 現代社会に広く貢献できる人材を育成するため図書館司書資格に関する科目を設置する	
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：HP (https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin)、学生便覧)	
(概要) 以下のポリシーを掲げ入学者の受入れの判定を行っている。 【入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー：AP)】 AP 1 日本語の基礎的な知識を身につけている人 AP 2 自らの考えを表現する基礎的な力を身につけている人 AP 3 日本文学・文化及び日本語に関心を持っている人 AP 4 幅広い知識や教養を身につけたい人 AP 5 課題を見つけ、自ら課題を解決する力を身につけたい人 AP 6 本学で得た知識や教養を生かして社会に貢献したい人	

学部等名 子ども学科（保育士養成コース）
教育研究上の目的 （公表方法：HP（https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin）、学生便覧） （概要）以下の目的、目標を掲げ教育活動を行っている。 【教育目的】 子ども学科は「幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成」を教育目的とする。 【教育目標】 ◇子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を身につける ◇子どもの内面理解に努め、子どもたちとのかかわることのできる能力を身につける ◇保育者・教育者としての社会的使命感、倫理観を身につける ◇他者と良好な人間関係を構築する能力を身につける ◇向上心や探究心をもって、教育に関する課題を解決できる能力を身につける
卒業の認定に関する方針 （公表方法：HP（https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin）、学生便覧） （概要）以下のポリシーを掲げ、卒業認定を行っている。 【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）】 DP 1 保育・幼児教育に関わる専門的な知識・技能と実践力を身につけている DP 2 一人一人の子どもの発達や特性を理解し、共感できる力を身につけている DP 3 保育への使命感と倫理観をもち、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている DP 4 生涯学び続け、主体的に行動することができる汎用的能力を身につけている
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：HP（https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin）、学生便覧） （概要）以下のポリシーを掲げ、教育課程の編成及び実施を行っている。 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）】 CP 1 保育・幼児教育に関わる専門的な知識・技能と実践力を身につけるための科目を設置する CP 2 子どもの発達や特性の理解を深めるための科目を設置する CP 3 子どもに共感できる力やかかわることのできる力を育むための科目を設置する CP 4 保育・幼児教育の目的と意義を理解し、社会的使命感・倫理観を涵養するための科目を設置する CP 5 コミュニケーション能力を涵養するための科目を設置する CP 6 地域と連携した体験などを取り入れ、学び続けることのできる力や主体性、課題解決力を涵養するための科目を設置する
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：HP（https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin）、学生便覧） （概要）以下のポリシーを掲げ入学者の受入れの判定を行っている。 【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）】 AP 1 保育・幼児教育の学びに意欲と関心を持つ人 AP 2 子どもや他者に対する愛情を持つ人 AP 3 倫理観や基本的生活習慣を持つ人 AP 4 コミュニケーション力を持つ人 AP 5 保育・幼児教育の分野で積極的に社会貢献しようとする意欲を持つ人 AP 6 保育・幼児教育を学ぶための基礎的な力を身につけている人
学部等名 子ども学科（小学校教諭養成コース）
教育研究上の目的 （公表方法：HP（https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin）、学生便覧）

(概要) 以下の目的、目標を掲げ教育活動を行っている。 【教育目的】 子ども学科は「幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成」を教育目的とする。 【教育目標】 ◇子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を身につける ◇子どもの内面理解に努め、子どもたちとかかわることのできる能力を身につける ◇保育者・教育者としての社会的使命感、倫理観を身につける ◇他者と良好な人間関係を構築する能力を身につける ◇向上心や探究心をもって、教育に関する課題を解決できる能力を身につける	
卒業の認定に関する方針 (公表方法：HP (https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin)、学生便覧)	
(概要) 以下のポリシーを掲げ、卒業認定を行っている。 【学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)】 DP 1 教員としての基礎的・基本的な学力と専門的な知識・技能修得に向けて学び続ける実践力を身につけている DP 2 子どもや子どもを取り巻く状況を理解し、教育的愛情を持って子どもに接していこうとする態度を身につけている DP 3 教育への使命感と倫理観をもち、感性を磨き豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている DP 4 主体的に学び続け、他者と共に協働して課題解決に取り組んでいこうとする能力を身につけている	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：HP (https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin)、学生便覧)	
(概要) 以下のポリシーを掲げ、教育課程の編成及び実施を行っている。 【教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)】 CP 1 学習指導要領に示された目標や内容を理解し、授業を行う実践力を身につけるための科目を設置する CP 2 子どもの心身の発達や学習の過程について、心理的・発達の特性を踏まえた指導の基礎となる科目を設置する CP 3 子どもの教育的課題を適切に捉え、支援することのできる力を育むための科目を設置する CP 4 小学校教育の目的と意義を理解し、社会的使命感・倫理観を涵養するための科目を設置する CP 5 主体的・対話的な深い学びをとおして、コミュニケーション能力を涵養するための科目を設置する CP 6 実習を核とし地域と連携した体験などを取り入れ、他者と協働して課題解決に取り組む力を身につけるための科目を設置する	
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：HP (https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/hoshin)、学生便覧)	
(概要) 以下のポリシーを掲げ入学者の受入れの判定を行っている。 【入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー：AP)】 AP 1 小学校教育の学びに意欲と関心を持つ人 AP 2 子どもや他者に対する愛情を持つ人 AP 3 倫理観や基本的生活習慣を持つ人 AP 4 コミュニケーション力を持つ人 AP 5 教育の分野で積極的に社会貢献しようとする意欲を持つ人 AP 6 小学校教育を学ぶための基礎的な力を身につけている人	

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

本学ホームページ (<https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/schoolteacher>)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2 人	－					2 人
国文学科	－	2 人	0 人	3 人	1 人	0 人	6 人
子ども学科	－	4 人	2 人	5 人	0 人	0 人	11 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		25 人					25 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/teacher					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
委員会会議は3回開催され、第1回目で委員会規程を確認してその後のFD活動を適切に実施した。実際に行ったFD活動は以下の通りである。							
①各学期授業アンケートの実施およびアンケート結果の分析・考察（ホームページでの公表）							
②アンケート結果を受けての授業検討票の作成（全教員）							
③学生のFD活動参画（学生懇談会（9月26日）における学生代表からの授業改善に関する意見聴取）							
④第1回FD研修（5月23日）「PROGテストについて」							
⑤第2回FD研修（6月27日）「ハラスメントについて」							
⑥第3回FD研修（9月12日）「アセスメント・ポリシーを踏まえた適切な成績評価の実施について」							
⑦第4回FD研修（12月12日）「シラバスの作成について」							
⑧第5回FD研修（学科別）（国文学科：平成31年3月12日）「アクティブラーニングの実践と改善：基礎力プログラムについて」（子ども学科：平成31年3月19日）「アクティブラーニングの実践報告会」							
以上の活動を通し、授業・教育方法の改善を全学的に行った。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国文学科	50 人	21 人	42%	100 人	43 人	43%	0 人	0 人
子ども学科	50 人	35 人	70%	100 人	75 人	75%	0 人	0 人
合計	100 人	56 人	56%	200 人	118 人	59%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国文学科	29 人 (100%)	0 人 (0%)	24 人 (82.8%)	5 人 (17.2%)

子ども学科	60 人 (100%)	1 人 (1.7%)	57 人 (95%)	2 人 (5.3%)
合計	89 人 (100%)	1 人 (1.1%)	81 人 (91%)	7 人 (7.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
国文学科	30 人 (100%)	29 人 () (%)	0 人 () (%)	0 人 () (%)	1 人 () (%)
子ども学科	63 人 (100%)	59 人 () (%)	0 人 () (%)	3 人 () (%)	1 人 () (%)
合計	93 人 (100%)	88 人 () (%)	0 人 () (%)	3 人 () (%)	2 人 () (%)
(備考) その他はすべて休学者数					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) - 授業計画（シラバス）の作成・公表時期（国文学科、子ども学科共通） ①授業計画の作成時期（12月下旬～1月中旬（新任教員はこの限りではない）） ※（参考）平成30年度に関しては平成30年12月27日から平成31年1月15日 ②授業計画の公表時期 （ホームページ：4月1日付、学生便覧：2年生は3月下旬、1年生は4月上旬） - 授業改善について ①学生が大学への要望等を意見する場として学生懇談会を実施し、懇談会内において学生から授業等に関する意見を聴取し、授業改善の一助としている。 ②学生に授業アンケートを実施し、それを元に各教員が授業検討票を作成し、授業改善の一助としている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 卒業認定に関する方針の具体的な内容 【国文学科】 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP） DP 1 日本文学・文化及び日本語についての専門的な知識と理解力を身につけている DP 2 適切な日本語の表現力を身につけ、自らの考えや意見を的確に表現することのできる力を身につけている DP 3 学びの中から課題を見つけ出し、自ら解決に導くための必要な能力を身につけている DP 4 身につけた幅広い知識や教養及び発信力をもとに、自立した社会人としての責任を自覚し、社会に進んで参画・貢献できる力を身につけている 【子ども学科・保育士養成コース】 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP） DP 1 保育・幼児教育に関わる専門的な知識・技能と実践力を身につけている DP 2 一人一人の子どもの発達や特性を理解し、共感できる力を身につけている DP 3 保育への使命感と倫理観をもち、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている DP 4 生涯学び続け、主体的に行動することができる汎用的能力を身につけている 【子ども学科・小学校教諭養成コース】

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

DP 1

教員としての基礎的・基本的な学力と専門的な知識・技能修得に向けて学び続ける実践力を身につけている

DP 2

子どもや子どもを取り巻く状況を理解し、教育的愛情を持って子どもに接していかうとする態度を身につけている

DP 3

教育への使命感と倫理観をもち、感性を磨き豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている

DP 4

主体的に学び続け、他者と共に協働して課題解決に取り組んでいかうとする能力を身につけている

また、卒業の認定に当たっての基準は以下の通り

学科	修業年限	卒業最低単位数	必修科目	選択科目	取得可能な学位
国文学科	2	63 単位	30 単位	33 単位以上	短期大学士（文学）
子ども学科	2	63 単位	12 単位	51 単位以上	短期大学士（教育学）

卒業の条件は以下の通り

本学を卒業するためには、2 年以上在学（休学期間を除く）し、下記のとおり単位を修得しなければならない。

学科	教養科目	専門科目	合計
国文学科	13 単位以上	50 単位以上	63 単位以上
子ども学科	13 単位以上	50 単位以上	63 単位以上

・卒業認定に関する方針の適切な実施状況

卒業認定に関しては、以下の流れで厳正に判断をし、実施をしている。

① 1 月下旬、最終試験終了

② 2 月上旬、最終成績確定

③ 2 月期教授会にて、卒業の認定に関する方針や学生の取得単位数を踏まえ卒業判定を行う。

④ 審議結果に従い、卒業者の決定

（根拠：2 月期教授会資料、議事録）

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	G P A 制度の採用 （任意記載事項）	履修単位の登録上限 （任意記載事項）
	国文学科	63 単位	無	各年次 50 単位
		単位	有・無	単位
	子ども学科	63 単位	無	各年次 60 単位
		単位	有・無	単位

G P A の活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：本学ホームページ （ https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info ）

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページ
キャンパスの施設・設備・立地 (https://www.s-bunkyo.ac.jp/campus)
図書館 (https://www.s-bunkyo.ac.jp/lib)
学生寮 (https://www.s-bunkyo.ac.jp/studentlife/dormitory)
学生便覧（P 1 5 ～ 1 9）

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	国文学科	540,000 円	220,000 円	380,000 円	教育充実費
	子ども学科	560,000 円	220,000 円	380,000 円	教育充実費
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組	
(概要) 概要の記載及び学生便覧より転記	
①担任制 両学科ともに担任制を運用している。各学科 1 名の教員が 7 名から 10 名程度の学生を担当し、特に学生の修学についてのアドバイスや、GPA がある一定の場合になると警告等を行う。	
②学生情報カルテ 2 回連続欠席が続いた場合や、授業内で気になる学生がいた場合に、各授業担当者に「学生情報カルテ」という様式に状況等の内容を記入してもらう事としている。その情報を担任教員、学務課長、学務課内にて共有をし、程度によって対応、指導を行う。また、その場合は学生情報カルテの項目にその内容の記入を重ねて行う。	
③修学支援減免制度の採用 (学生便覧より転記) 〈就学支援減免制度〉 経済的理由により修学困難な学生に対する授業料等の減免	
1 対象者	本学に籍を有する学生
2 減免対象範囲	保証人が失職、倒産、離婚、死亡等により生活が困窮していると認められる場合に行います。
3 減免する授業料等の種類	授業料
4 免除基準	申請者家庭年間収入額と減免額 1 2 0 万円以下・・・全額免除 2 4 0 万円以下・・・半額免除 (但し基準額は 3 人家族を想定しているため、扶養者一人が増減する毎に基準額に 6 0 万円を加算または減額する。) 学業成績・授業出席状況を勘案し優秀者に対して減免を行う。
5 申請時期	随時申請可
6 提出書類	・授業料等減免申請書 ・申請者家族全員の所得証明書又は給与証明書 ・奨学生受給決定通知書 (該当者のみ) ・申請者家庭の生活状況書 (支出経費の明細) ・家族状況書 ・その他特に求める書類
※ 生活状況書は、収入は家族全員の収入状況 (奨学金含む)、支出は食費・住居費・光熱水費・教材費・交通費等記載。(同居兄弟等がいる場合は家計維持にかかる総額を記載。)	
※ 認定後、各学期成績状況等により取り消しとなることがあります。	

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

進路支援担当職員、担任教員、専門分野に関する実務経験のある教員が連携して様々な角度から進路支援を実施している。進路支援担当職員はキャリアデザインセンターに常駐し、個人に合わせた情報提供や個別支援を行っている。情報提供は学内求人検索システムも使用し、個別支援はハローワークとも連携して行う。担任教員は担任する少数の学生と定期的な面談を行い、修学支援と併せて進路支援も行う。実務経験のある教員は図書館司書、保育園・幼稚園の園長、小学校校長等の勤務経験を生かし、専門分野での就職を考える学生の相談に対応している。

進路支援行事として、就職支援講座、筆記試験対策講座等を在学生全員対象に開催している。国文学科では1年次に業界研究を目的とした「学内合同企業説明会」を実施している。子ども学科では保育園の園長や教育委員会の方を招いての講演会、2年次には「学内保育就職フェア」を実施している。フェアは長浜市を中心とした湖北地域の私立園が参加し、学生は園の特色や採用情報の説明を受けている。その他、学科別で実施しているインターンシップがあり、国文学科は図書館、子ども学科は保育園・幼稚園・小学校等において就業体験を行っている。

授業としてはキャリア教育を行う「キャリアデザイン」、社会人基礎力を養う「基礎力プログラム」などがある。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要) 学生便覧より転記 (P66)

1 3. 相談

悩んでいること、困っていること、気になっていること等、相談したいことがある場合は、以下を確認し、気軽に相談すること。必要に応じて、学内の各部署・機関、学外の機関と連携しサポートする。

相談したこと、相談内容等の個人情報は本人の同意なく第三者に提供することはない。

担任相談について

各学生に担任の教員がついている。何か相談したいことがあれば、まず、担任に相談すること。相談の際は、原則、事前に日時や場所を直接本人が約束すること。

学生相談について

「学生相談」は担任への相談が難しい場合等に利用することができる。詳しくはオリエンテーション、掲示等で連絡する。

- (1) ゆっくり話を聴くために予約制となっている。次の要領で事前に予約すること。
 - ① 学務課窓口で申込用紙を記入するか、担任へ「学生相談」を希望する旨を伝える。
 - ② 担当者で日時と場所を調整する。
 - ③ 決定した日時と場所を学務課窓口またはメールで直接本人に連絡する。
- (2) 相談は無料。1回の相談は原則 50 分とする。
- (3) 相談が継続して必要な場合も同じ要領で予約すること。
- (4) キャンセルしたい場合は必ず、学務課か担任へ連絡すること。

その他の相談について

特定の内容に関しての相談は下表のとおり、直接相談が可能である。

担当者等の詳細や変更内容はオリエンテーションや掲示にて連絡する。

(下表は、平成 30 年度の情報)

名前	場所	主な内容
学務課	本館 1 階事務室 学生ホール 学務課窓口	学生生活全般、課外活動、健康、保険、授業関係、履修登録、成績、学生相談受付
入試キャリア課 (就職支援担当)	本館 1 階 キャリアデザインセンター	進路相談(就職、進学)、ハローワーク相談、学外奨学金の申込・変更手続き
総務課	本館 1 階事務室 学生ホール 会計窓口	学費等のお金に関すること、学内奨学金
実習指導室	本館 2 階(及び学務課窓口)	子ども学科の実習に関すること
ハラスメント 防止委員会	-	ハラスメントに関すること ※相談に応じる委員は掲示板等で案内

留学生窓口※	学務課	留学生の学生生活全般
--------	-----	------------

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：滋賀文教短期大学リポジトリにて「滋賀文教短期大学紀要」を公開
<https://s-bunkyo.repo.nii.ac.jp>
 また、同じ物を刊行物として発行
 （入手する場合は、滋賀文教短期大学事務局 図書館に問い合わせ）